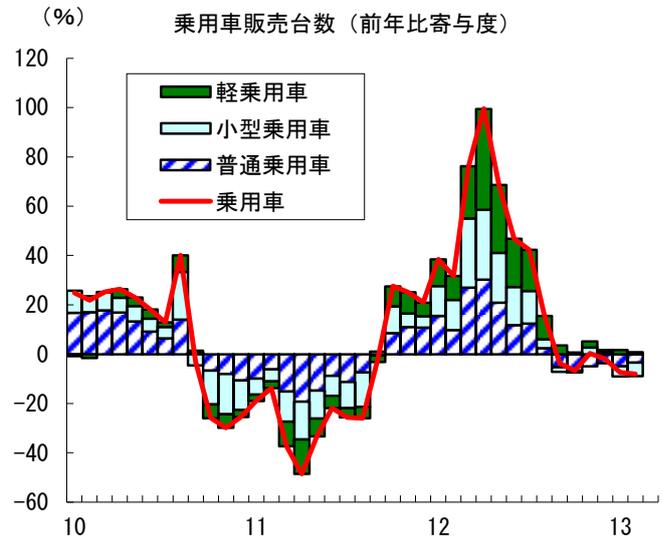
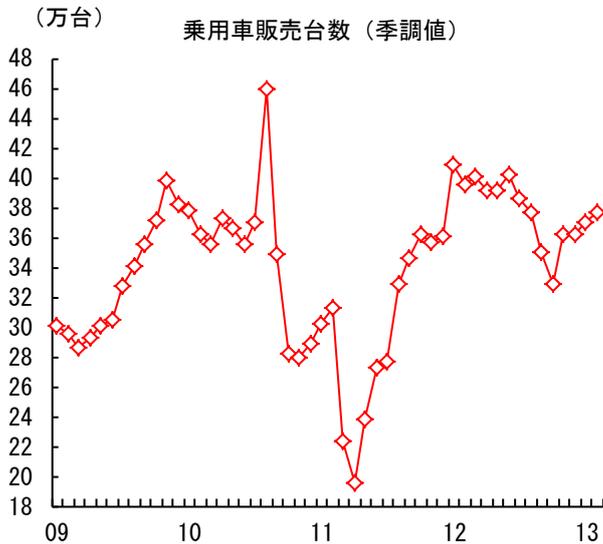


テーマ：新車販売台数（2013年2月）
 ～乗用車販売の持ち直し続く。1-3月期の景気を下支え～

発表日：2013年3月1日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528



（出所）日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

（注）季節調整は第一生命経済研究所

○ 自動車販売は持ち直し傾向続く

日本自動車販売協会連合会が発表した13年2月の新車販売台数（軽自動車を除く登録車）は前年比▲12.2%（1月：同▲12.9%）、全国軽自動車協会連合会が発表した軽自動車販売台数は同▲0.8%（2月：同+1.0%）、登録車と軽自動車を合わせた販売台数では前年比▲8.1%（2月：同▲7.8%）となった。このうち、乗用車販売台数（普通・小型乗用車販売台数と軽乗用車販売台数の合計）は前年比▲8.1%（2月：同▲7.4%）だった。前年比では前月からやや悪化という形だ。

もっとも、季節調整値（季節調整は第一生命経済研究所）で見ると、2月の乗用車販売台数は前月比+1.9%（1月：+1.9%）と、小幅ながら4ヶ月連続の増加となっている。エコカー補助金終了に伴う反動減は既に終息しており、自動車販売は12年10月を底として持ち直し傾向が続いている。鉱工業生産指数でも、輸送機械の生産が12月、1月と2ヶ月連続で大幅改善、2月の生産計画も増加と、足元の生産活動の牽引役となっているが、販売サイドからもこうした動きが裏付けられている。

なお、乗用車販売台数（季節調整値）の1-2月平均の値は、10-12月期の水準を6.1%上回っている。自動車販売は、12年7-9月期、10-12月期の個人消費の押し下げ要因になってきたが、13年1-3月期については逆に押し上げ要因になるだろう。この点も、1-3月期のGDP成長率が明確なプラスになる可能性が高いことの根拠の一つである。